

令和4年度第5回鎌倉市子ども読書活動推進計画に関する連絡会議 会議録

日時：令和5年（2023年）2月24日（金） 15時00分～16時45分

場所：中央図書館多目的室

**議事次第のとおり、議事を進行。**

**議事次第1：パブリックコメントの結果について**

**事務局より、パブリックコメント・庁内意見募集の結果について説明。**

**（質疑応答）**

（委員）自分の感想だが、居場所としての図書館、にぎやかな図書館に対して好感の高い意見が多かった。また学校図書館については、具体的な記述が多いと感じた。電子書籍やデジタル化については、あまり意見が出ていないと感じた。

（事務局）学校図書館との連携は、学校訪問、学校貸出など様々な事を行っている。学校司書、教育指導課とも連携を図り、研修や打合せの機会を持っていて、ますます重要になっている。居場所づくりに関しては、市役所が移転する際に、新庁舎内に深沢図書館を複合することが決まっている。12月の議会で位置条例改正案が否決されたが、基本計画は策定されているので、図書館としても遅れをとらないようにしていきたい。図書館の面積のことも取り沙汰されているが、静かに過ごすだけでなく、居心地の良い子どもの居場所となる工夫について、意見を出していきたい。また、図書館としては、子ども読書活動推進計画だけでなく、もう一つ図書館サービス計画の策定を進めているところだが、電子書籍については、サービス計画の中で検討を進めている。近隣市も始めているところもあるが、導入時にも維持費にも予算がかかり、難しいが、新庁舎複合化などの機会を捉えて、整備できるとよいと考えている。

（委員）パブリックコメントではないが、配布された図書館だよりに掲載されている子どものアンケートが面白い。ジャングルみたいな図書館など面白い。

（委員）子どもの発想はいいですね。視野が広がる思いがする。前に連絡会議の場でも言ったが、ぜひ子ども向けのタウンミーティングができるといい。

（委員）前回の連絡会議で紹介してくれた「かますけくんにてがみをかこう！」も良い企画だった。メールとかでなく、ポストにお手紙が送られてくるという体験自体も珍しく、子どもたちはお返事がほしくて、手紙を書いていた。「かますけくんに会えるのかな？握手できるのかな？」と言っていたので、せっかく作ったキャラクターなので、図書館でかますけくんに会えるといい。かますけくんに会いに図書館に行くという子もいると思うし、かますけくんの手だけでもいいので、握手ができる場所などがあるといい。

（委員）かますけくんからのおすすめの本として、本の紹介コーナーを作成するのもいいかもしれない。

(委員) かますけくんは2次元だけか。3次元化の予定は。

(事務局) まだそこまでは…。夢の中だけの本の案内人となっている。昨年秋頃「かますけくんにてがみをかこう！」という企画をし、かますけくんからお返事が届くよ、とあって、子どもたちから意見を集め、図書館の運営に役立てているところ。この連絡会議の場(紙面会議のアンケート含む)で子どもたちから意見を集めてはどうかという提案から始まった企画なので、みなさんのおかげで実現できた企画。現在、各図書館で、こんなお手紙をもらったという展示を行っている。

(委員) 返事は展示ということか。

(委員) 直接返事をもらった。今どき、葉書をもらえないので、子どもも喜んでいた。

(委員) 返事がある、応答があるということが大切だと思う。応答があると、また次の意見にもつながっていく。

他にも何かあるか。

(委員) 子どもに本を読んでほしいというスタンスでこの計画を策定していると思うが、子どもの意見というのが本当に大事だと思う。子どもは親が薦める本はなかなか読んでくれない。子どもの興味と少しずれているのか。ユーザーが子どもなら、ユーザーの意見を聞くべき。だが、聞き方が難しい。学校ではどのように子どもの意見を聞いているのか。

(委員) 居心地の良い図書館だと子どもたちは興味をもつ。静かにしないといけない図書館は勉強っぽくなってしまう。本を楽しむ時間になっていない。授業の中で「自由に声を出して、本のことを話していい」という時間を設けると、子ども同士でよく交流している。図書館は交流できる場所ということを教えたい。

(委員) 小学校では、本が好きな子どもは自分で選んでよく読んでいます。本にあまり興味のない子には、子ども同士ですすめるのが有効。先生がおすすめる本より、子どもがすすめるものの方がいいようだ。コロナ禍でしまっていたソファを出したら、3人席に5人くらいくっついて座って、本を読んでいる。友達と一緒に読むのがいいようだ。

(委員) 絵本は子どもが親の膝の上の上で読むものだと聞く。図書館だよりのアンケートにも、ベッドがあったらいいという意見もあったが、子ども同士くっついてゴロゴロしながら読むのもいいのかもしれない。来年度以降の取組の中でも、ぜひ子ども向けのタウンミーティングを実施してほしい。

## 日程2

計画の概要について説明後、修正素案について、主な修正点を素案をめぐりながら、委員に確認してもらった。また、欠席の委員からの意見と教育福祉常任委員会での意見についても紹介し、修正案を示した。

(質疑応答)

(委員) 中学校の図書館では読書活動推進員が成果として増えているとのことだったが、それでも少ないと感じている。この計画に載れば、読書活動推進員の勤務日数が増えるのか。

(事務局) 計画に載ったからといって、必ずしも増えるわけではない。学校関係者の方々のおかげというか、実際に予算をつけたりしているのは、教育指導課となる。

(委員) 学校図書館はもちろん充実させたいと考えている。しかし、他の教育活動もとめるわけにはいかない。バランスを考えながら、検討している。読書活動推進員を必ず増やしますとは言えないが、引き続き検討材料の一つにはなっている。

(委員) 蔵書を増やすとかデジタル化というものには予算がかかり、すぐに実現というのが難しいのはわかる。居場所や「にぎやかな図書館」というのは、ソフト面であり、明文化することで意識を変えることができ、すぐに取り組むことができるのではないだろうか。

保育園や幼稚園で集団行動が苦手な子が絵本コーナーで過ごすということがあると聞く。これも絵本コーナーがその子の「居場所」となっているということ。学校にも不登校の子が、学校図書館に行ける雰囲気というのはあるのか。

(委員) 小学校では、クールダウンといって、心を静かにさせるためにその子にとって良いところ、廊下のすみっこや図書館に行くこともある。一人でいることが必要なこともある。学校図書館もクールダウンの場になることもある。

(委員) 授業中にか？

(委員) 児童から「ちょっと図書館に行ってもいいですか」と言われたら、一人にはできないので、担任から「〇〇さん、図書館でクールダウンします」と連絡がくることもある。

(委員) 中学校では学校図書館は使わない。保健室に行くが、その後、落ち着いたら、別室で課題に取り組むようにしている。一人にしないようにする配慮をしているが、ずっと教員がつくのも難しく、早退することになる。1時間登校、2時間登校ということも心掛けながら、教室復帰ができるよう配慮している。本を読むという時間を取る予定は今のところなく、課題に取り組むというかたちだ。

(委員) 現状では学校図書館を子どもの居場所とするというのが難しいという事情は理解するが、1つの居場所として検討の余地はないだろうか。

(委員) 学校図書館が使えないというのは、読書推進員など学校司書がいれば、学校図書館も居場所になる可能性は広がるのか。

(委員) その可能性はあるかもしれないが、どちらかという学習の遅れを取り戻すことに配慮している。本を読んでいいよというよりは、クラスに入れなければ、他のものを使って学習支援をしていくようにしている。

(委員) 学校図書館の居場所の件からもニーズがあれば、読書活動推進員の増加へつながるかと思い、聞かせてもらった。

他には何かあるか。

(委員) 教育の個別最適化が言われてきていると思う。学校というシステムで大勢

で受ける授業から、一人ひとりが自主的に学ぶ場となり、先生はそれをサポートする形態になると聞いた。学びとは自分から「何だろう」に対する答えを探すこと。図書館のような、自分で自分の学びを進められる場所が、常に学校の中に開いていることが大切。

(委員) 子どもの学びという側面から、学校図書館が常に開いていることが重要だという意見ですね。

(委員) 教育界全体として、タブレットを使って教室で、それぞれが自由に調べ学習をするというところまでは、まだ時代が進んでいないと思う。学びの進め方が人と違う子が一律に教える授業で合わない時に、自分らしく学べる場として、周りの子と違う学びの場があるといいと思う。

(委員) そのような学習は実際、学校では行われているのか。

(委員) 探究学習(自ら問いを立てて、それに対して答えていく学習)はしている。

(委員) その時に学校図書館が開いてないといけないのではないか。

(委員) 全てが一斉に考える時間がなくなるというわけではない。課題を与えて、個々に学びとっていく学習もあれば、共同の学びから得る学習もある。

(委員) 個別学習をするために、調べ学習をする割合はどのくらいあるのか。自分は大学時代、建築を学んでいて、当時からオープンスクールの形式がうたわれていた。先生が教壇から教える一斉学習ではなく、これからは教室の脇にオープンスペースがあって、それぞれが学んでいくと言われたのが40年前のこと。なかなか変わらないと思っていたが、教員の教職課程でも学ばないのか。フィンランドなど先進的な教育制度を持つ国から遅れをとっている。

(委員) 学び方の変容はあるが、学習指導要領があり、それを網羅しないとイケないということもあり、興味をもったことへの学習もするが、ある程度は教員がファシリテートしていかないとイケない。

(委員) もちろん現場ができてないと言っているわけではなく、文科省が進められていないということかと思う。

(委員) 一人一台タブレットが支給されたことにより、タブレットでなんでも調べられてしまうので、かえって学校図書館へ調べに行かなくなってしまった。総合学習、調べ学習も教室で完結してしまう。学校図書館へは本を読みたい子だけが昼休みに行くということになってしまった。放課後は部活動や塾、習い事もあり、なかなか利用する子がいないので、学校図書館は開かなくなってしまい、ますます子どもたちは学校図書館から足が遠のくという状況になってしまっている。

(委員) 複雑な環境のなかでどう図書館が位置づけられていくのか。一部の人のため、特定の人のためとなると進まないのでは、全体の子どもたちのために学校図書館が必要だという議論をしていかないとイケない。

(委員) こども支援課では、1月1日に鎌倉市に住所のある18歳以下の子ども全員に、一人当たり5000円分の図書カードをプレゼントしている。ある意味、図書館の利用を阻害することになってしまうかもしれないが。

(事務局) この計画は子どもの読書環境を整えることが目的なので、図書館利用だけをすすめるものではないので、このような事業はこの計画にとって良いことだと考える。

(委員) 概要についてだが、課題のところでは、「にぎやかな図書館」のあり方の検討とあるが、重点事業と具体的な取組のなかには「にぎやかな図書館」というワードが入っていないので、ぜひ入れてほしい。

(事務局) 「個々のニーズに応えるゾーニングの検討」という言葉に、にぎやかな図書館と静かに使いたい人のための図書館の両方を込めた。うまく書けるかわからないが、「にぎやかな図書館」という言葉が入れられるか、検討してみる。

(委員) 太田委員からご指摘のあったデータの話だが、経年で傾向の変化をみるためのデータということだったが、全国的にも同様なのか。県によって条件が違うので単純に比較はできないと思うが、もし気付いた点があれば。

(事務局) この調査は文科省がかなり前から行っている調査で、教育指導課からも意見をいただき、素案作成時のデータ分析が浅かったと反省している。今言われた側面からの分析も必要かもしれない。

(委員) 図書館に月1回以上行くかどうかという問いは、単に図書館が多いとか少ないということだけでない何かがあるのか。学力というよりは図書館の利用に関する差を分析することで参考になるのかと思う。

(事務局) なるほど。今言っていたいただいた観点から、もう少し考えてみたい。話はそれるが、この調査は平日1日の読書量としている。また、土日を含まない。読書の中にSNSの文字は含まないのだが、含んだほうがよいのか、もし今後鎌倉市が調査するとしたら、どんな調査をするのがよいのかなど、調査のあり方についても教育指導課や教育関係の方と一緒に考えていきたい。

(事務局) 47都道府県の地域性もあり、施設の数なども考慮すると違いがあるのかもしれない。ある程度全国平均と比較するしかないのかもしれない。鎌倉市が優れている劣っているということではなく、比較することで、よりよく改善していくための指標としていただければと思う。

(委員) 読書量にはマンガは含まれないのか。

(事務局) マンガは含まれない。この調査は文科省がかなり前から行っている調査で、長期間経年変化を同じ項目で見る事にも意味もある。ホームページで公開されている。今公開されているデータでもわかることもあるかもしれない。

(委員) 本は世界観があり想像力を養うと思うが、今はメディアがたくさんあり、マンガにも世界観があり、想像力を豊かにするものだと思う。今はマンガもほとんどデジタルで、ネットだったら無料で読むことができる。10冊のマンガを無料期間中に読むために、今の子どもたちは毎日3時間とかかなりの勢いで読んでいる。この調査だけでは、子どもたちの読書量をはかることは難しいと感じた。

(事務局) 計画でも重点を置いている「紙資料とデジタル資料のハイブリッドな活用」をどのように行っていくかというのが課題だと考えている。仮定の話になってしま

うが、そういった側面も含め、アンケート調査などをモデル校とできたらいいと考えている。

(委員) 修正素案については、連絡会議の意見を踏まえ、調整してほしい。

### 日程3 その他 ①未就学児の居場所や読書環境の充実について

(事務局) 学校施設課の会議で出た意見を紹介する。未就学児も学校図書館を利用できるようにしてほしいという要望があったが、学校はセキュリティの関係で誰でも自由に入出入りするの難しいので、未就学児の居場所や読書環境について検討していければと考えている。図書館の他に、未就学児が利用できる施設としては、子育て支援センターや放課後かまくらっ子が考えられるが、放課後かまくらっ子の様子について、青少年課に話を伺いたい。

(委員) 平日は午後1時まで、土曜日は午後5時まで未就学児も利用することができる。おもちゃや絵本が少しあるが、未就学児が楽しめる読書環境には課題がある。飲食についてはすでに解禁していて、シートを敷いてもらえば可能としている。3月に御成地域が旧図書館を放課後かまくらっ子の施設として使えるので、これで全区に整備されたことになる。

(事務局) この計画のなかでも、取組事業一覧の項目としては、「蔵書の充実」として取り上げている。今後も未就学児の居場所の読書環境について、整えられるよう考えていきたい。

### 日程3 その他 ②来年度の連絡会議 市民委員の追加と任期について

(事務局) 今までは素案を策定する年だけ、市民委員を公募してしたが、今後は策定の年だけでなく、市民委員を公募して加えていきたい。任期は計画期間に合わせて3年としたい。また、行政は充て職だが、教育関係者の方も可能な限り、計画期間中同じ方に担当してほしい。来年度、推薦をいただくときに、任期を3年として依頼させていただきたい。ご了承していただけるか。

(委員) 了承

### 日程3 その他 ③スケジュールについて

(事務局) 今後のスケジュールについて。この後、今日の意見を反映した修正素案を決裁をとり、週明けの図書館協議会、3月15日の教育委員会、3月22日の政策会議で報告する予定。3月末に計画策定という運びとなる。パブリックコメントの結果についても公開していく。この連絡会議については、4月以降にまた推薦等依頼をし、来年度1回目は早くも7月以降となる予定。

(委員) 了承

委員からひと言ずつ挨拶をもらい、閉会。